

最終評価シート（案）

最終評価（表紙）

弘前市歴史的風致維持向上計画（平成22年2月4日認定） 最終評価（平成21年度～30年度）

■ 統括シート（様式1）	2
■ 方針別シート（様式2）	
I 歴史的な建造物やまち並みの保存と活用の推進	3
II 地域に根付いた伝統的な人々の活動への支援	4
III 歴史的風致の活用に向けた環境整備の推進	5
IV 歴史的風致の魅力を再発見できる取り組みの推進	6
■ 波及効果別シート（様式3）	
i 景観の保全	7
ii 外国人観光客の増加	8
iii 住民意識の向上	9
■ 代表的な事業の質シート（様式4）	
A 弘前城本丸石垣整備事業	10
B 伝統的建造物群保存地区地方道改修事業	11
■ 歴史的風致別シート（様式5）	
1 弘前さくらまつりに見る歴史的風致	12
2 弘前ねぶたまつりに見る歴史的風致	13
3 宵宮に見る歴史的風致	14
4 津軽伝統工芸職人に見る歴史的風致	15
5 お山参詣に見る歴史的風致	16
■ 庁内体制シート（様式6）	17
■ 住民評価・協議会意見シート（様式7）	18
■ 全体の課題・対応シート（様式8）	19

市町村名	弘前市	評価対象年度	H21～H30年
① 歴史的風致			
	歴史的風致	対応する方針	
1	弘前さくらまつりに見る歴史的風致	I, IV	
2	弘前ねぶたまつりに見る歴史的風致	I	
3	宵宮に見る歴史的風致	II, III	
4	津軽伝統工職人に見る歴史的風致	I, II	
5	お山参詣に見る歴史的風致	I, II	
② 歴史的風致の維持向上に関する方針			
	方針		
I	歴史的な建造物やまち並みの保存と活用の推進		
II	地域に根付いた伝統的な人々の活動への支援		
III	歴史的風致の活用に向けた環境整備の推進		
IV	歴史的風致の魅力を再発見できる取り組みの推進		
③ 歴史まちづくりの波及効果			
	効果		
i	景観の保全		
ii	外国人観光客の増加		
iii	住民意識の向上		
④ 代表的な事業			
	取り組み	事業の種別	
A	弘前城本丸石垣整備事業	歴史的風致維持向上施設の整備・管理	
B	伝統的建造物群保存地区地方道改修事業	歴史的風致維持向上施設の整備・管理	

市町村名	弘前市	評価対象年度	H21～H30年
方針	I 歴史的な建造物やまち並みの保存と活用の推進	今後の対応	継続展開

① 課題と方針の概要

多くの歴史的建造物は文化財等に指定され、保存・活用が図られているが、指定されていないその他の歴史的建造物は、その価値の認識不足や維持費の問題、所有者の高齢化、後継者不足等の理由により老朽化や消失が進んでいる。

文化財等に指定されている建造物は適切に保存・活用を図り、その他の歴史的価値の高い建造物は文化財等指定の可能性を検討するとともに、必要な措置を行い保存・活用を図る。

② 事業・取り組みの進捗

	項目	推移	計画への位置付け	年度
1	弘前城本丸石垣整備事業	天守曳屋、石垣整備中	あり	H19～
2	旧第八師団長官舎保存修理事業	修理・曳家し、店舗として活用	あり	H22～25
3	旧笹森家住宅復元整備事業	復元し、一般公開	あり	H21～23
4	景観重要建造物の指定	0件⇒14件	あり	H24～
5	文化財の指定	239件⇒264件	あり	

③ 課題解決・方針達成の経緯と成果

【弘前城本丸石垣整備事業】

石垣修理委員会指導を受け、石垣の保存・修理を実施。当市を代表する史跡の保存を計画的に実施。

【旧第八師団長官舎保存修理事業】

老朽化が著しい旧第八師団長官舎を修理、耐震改修を実施し、登録有形文化財等に指定。歴史的建造物を活かした喫茶店が営業され、保存・活用が図られた。

【旧笹森家住宅復元整備事業】

解体保存していた旧笹森家住宅を伝統的建造物群保存地区内に復元し、一般公開。国の重要文化財に指定され、適切に保存・活用が図られた。

【景観重要建造物の指定】

翠明荘（旧高谷家別邸）等、景観重要建造物の指定を行うとともに、修景に対する補助制度を新たに創設し、所有者の負担を軽減することで伝統的な街並みの景観向上が図られた。

【文化財の指定】

歴史的価値の精査、国や県の文化財指定への協力により、旧弘前藩諸士住宅をはじめ、計画期間中に25件が新たに文化財に追加され、歴史的価値の整理と保全が図られた。



曳屋前の発掘の状況



復元された旧笹森家住宅
（旧弘前藩諸士住宅）

④ 自己評価

建造物の保存修理、復元により、文化財の適切な保存と活用が図られた。また、歴史的価値の高い建造物を文化財に指定。

文化財に指定されていない地域のシンボルとなる建造物を景観重要建造物に指定し、保全・修景を図った。

一方、所有者の経費負担や高齢化等により、保全が図られていない建造物が残されているのが課題となっている。

⑤ 今後の対応

今後も石垣整備や修理、文化財等の指定に取り組み、歴史的建造物の保存と活用に努める。また、景観重要建造物の修景に対する支援等により歴史的街並み保存と活用への住民意識の啓発に努める。

市町村名	弘前市	評価対象年度	H21～H30年
方針	Ⅱ 地域に根付いた伝統的な人々の活動への支援	今後の対応	継続展開

① 課題と方針の概要

地域住民によって支えられてきた伝統行事や伝統芸能の中には、少子高齢化などの進展に伴い、次世代の担い手不足が深刻化しているものもある。伝統産業についても、消費者ニーズの多様化に伴う生産額の低下や職人の高齢化・減少化が進んでいる。
 祭礼や年中行事などに対し支援策を検討。また、伝統工芸の後継者育成や、販路拡大、商品開発を促す環境整備を行う。そのほかの伝統芸能については継承のための措置を講じるとともに記録保存に努める。

② 事業・取り組みの進捗

	項目	推移	計画への位置付け	年度
1	民俗芸能保存育成事業	8団体の育成活動費へ補助	あり	H18～
2	津軽塗技術保存伝承事業	研修生3名、フォローアップ2名	あり	H21～
3	伝統工芸品活用促進事業補助	36件	なし	H23～
4	販路開拓支援補助	国内 41件 海外4件(H28～)	なし	H23～
5	津軽塗後継者育成研修	研修生12名(うち、修了生10名)	なし	H19～

③ 課題解決・方針達成の経緯と成果

【民俗芸能保存育成事業】

保存伝承に取り組む団体に対し、用具修理等の活動費の一部を補助することで、発表会など自主開催に繋がっている。

【津軽塗技術保存伝承事業】

技術研鑽及び後継者育成支援により、伝統的な津軽塗技術を有する職人の育成が図られている。

【伝統工芸品活用促進事業補助】

市内飲食店や宿泊施設が工芸品を購入する際の費用補助により伝統工芸品の普及・活用促進が図られた。

【販路開拓支援補助】

国内外での見本市への出展支援により独自の技術・工芸品の販路拡大・新規需要機会の創出に繋がっている。

【津軽塗後継者育成研修】

津軽塗職人を目指す人への基礎研修に対する支援を行い、5名が職人として独り立ちするなど、後継者確保に繋がっている。



民俗芸能発表会 H26.7



後継者育成(津軽塗)の状況

④ 自己評価

伝統工芸品の販路拡大・販売促進推進事業では国内外への進出機会・新規需要の開拓が促進、市内の飲食店や宿泊施設への伝統工芸品の普及により観光客の目に触れる機会の創出にも繋がった。

また、民俗芸能や伝統工芸職人の保存・育成のための支援を通して次世代を担う人づくりの推進が一定程度図られた。

一方、民俗芸能等を伝承する団体は有志による運営が多いことから、活動に必要な用具の修理費等への支援が引き続き課題となっている。

⑤ 今後の対応

引き続き伝統工芸・民俗芸能への後継者育成支援、活動に対する補助を行うことで技術の伝承に努める。また、伝統工芸品の販路開拓支援を行い生産量拡大に努める。

市町村名	弘前市	評価対象年度	H21～H30年
方針	Ⅲ歴史的風致の活用に向けた環境整備の推進	今後の対応	継続展開

① 課題と方針の概要

電線類や屋外広告物、景観の悪化を招く建築物等により、歴史的景観を阻害している。また、古くからの狭幅員の道路により、回遊性が損なわれている。
 歴史資源を繋ぐ歩行者ネットワークの形成や無電柱化、屋外広告物等の規制など、周辺環境の整備や歴史的風致の情報を発信する拠点施設、多様化する観光客の受け入れ環境の整備により歴史的風致の活用、国内外の来訪者の利便性・回遊性の向上につなげる。

② 事業・取り組みの進捗

	項目	推移	計画への位置付け	年度
1	無電柱化と消流雪溝の整備	伝統的建造物群保存地区内約1,610m整備	あり	H19～
2	新寺構土塁整備事業	土塁を整備	あり	H25
3	旧藤田家別邸倉庫保存修理	倉庫を保存・修理	あり	H27～
4	景観計画の策定	弘前公園周辺の規制の強化	あり	H23～
5	道標・案内板の整備	誘導板12基、施設等案内板39基	あり	H26～

③ 課題解決・方針達成の経緯と成果

【無電柱化と消流雪溝の整備】

幅員が狭隘な伝統的建造物群保存地区の輻輳する電柱、電線類の解消と消流雪溝の整備により、良好な景観を形成。まち歩きしやすい環境を整備した。

【新寺構土塁整備事業】

史跡弘前城跡新寺構の土塁を整備し、史跡の保護と五重塔の眺望景観保全のほか、歩行者空間の確保によるネットワーク化が図られた。

【旧藤田家別邸倉庫保存修理】

歴史的風致形成建造物である倉庫を保存修理し、回遊する際の休憩所と伝統工芸品の展示スペースを整備。

【景観計画の策定】

地域の良好な景観形成を図るため、平成24年3月に景観計画を策定。特に景観形成重点地区では弘前公園周辺の規制を強化し、歴史的風致との調和を図ることに繋がった。

【道標・案内板の整備】

来訪者の回遊性向上を図るため、歴史的建造物の案内板や誘導板を多言語で設置し、歴史的風致の理解促進に繋がった。



↓ 無電柱化



多言語対応案内板

④ 自己評価

伝統的建造物群保存地区内の無電柱化と消流雪溝の整備による住環境の向上とともに、観光客の増加や住民の満足度も向上。
 一方、少子高齢化に伴う後継者不足や空き家化等により良好な景観を形成しているサワラや門等、周辺環境の管理不足が懸念される。
 また、多言語化による受け入れ環境の整備が進んでいるが、多言語対応が終わっていない案内板の整備等、引き続き受け入れ態勢の整備が課題となっている。

⑤ 今後の対応

引き続き無電柱化による景観形成や、案内板等の整備による利便性・回遊性の向上等により弘前らしい歴史的景観を活かしたまちづくりに取り組む。また、伝統的建造物群保存地区の保存計画の見直しによる持続可能な保存地区の環境形成を図る。

市町村名	弘前市	評価対象年度	H21～H30年																															
方針	IV 歴史的風致の魅力を再発見できる取り組みの推進	今後の対応	継続展開																															
<p>① 課題と方針の概要</p> <p>所有者の高齢化・後継者不足等により、歴史的建造物の老朽化や消失が進んでいる。文化財には指定されていないものの歴史的・文化的に価値の高い地域資源を把握し、歴史的価値を認識することは、自らのまちに誇りを持つとともに、市民レベルでの保全活動等にもつながることから、歴史的風致を醸し出しているまちの資源を再発見できる取り組みを推進する。</p>																																		
<p>② 事業・取り組みの進捗</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>項目</th> <th>推移</th> <th>計画への位置付け</th> <th>年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>趣のある建物ガイドマップ作成</td> <td>年間2万部配布</td> <td>あり</td> <td>H20～</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>景観フォーラム・ブースの開催</td> <td>年1回程度開催</td> <td>なし</td> <td>H1～</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>近代建築ツーリズムネットワーク</td> <td>9自治体でネットワークを形成</td> <td>なし</td> <td>H28～</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>文化財建造物・史跡等の公開</td> <td>369回開催、参加者数約4万6千人</td> <td>あり</td> <td>H22～</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>ひろさき卍学の実施</td> <td>市立小・中学校50校でスタート</td> <td>なし</td> <td>H30～</td> </tr> </tbody> </table>						項目	推移	計画への位置付け	年度	1	趣のある建物ガイドマップ作成	年間2万部配布	あり	H20～	2	景観フォーラム・ブースの開催	年1回程度開催	なし	H1～	3	近代建築ツーリズムネットワーク	9自治体でネットワークを形成	なし	H28～	4	文化財建造物・史跡等の公開	369回開催、参加者数約4万6千人	あり	H22～	5	ひろさき卍学の実施	市立小・中学校50校でスタート	なし	H30～
	項目	推移	計画への位置付け	年度																														
1	趣のある建物ガイドマップ作成	年間2万部配布	あり	H20～																														
2	景観フォーラム・ブースの開催	年1回程度開催	なし	H1～																														
3	近代建築ツーリズムネットワーク	9自治体でネットワークを形成	なし	H28～																														
4	文化財建造物・史跡等の公開	369回開催、参加者数約4万6千人	あり	H22～																														
5	ひろさき卍学の実施	市立小・中学校50校でスタート	なし	H30～																														
<p>③ 課題解決・方針達成の経緯と成果</p> <p>【趣のある建物ガイドマップ作成】 弘前の風情を醸し出している築50年以上の建築物を趣のある建物として指定、散策ルートを設定したガイドマップを配布。地域資源の再発見に繋がった。</p> <p>【景観フォーラム・ブースの開催】 弘前の景観を考えるフォーラムや、ブースの出展により身近な地域資源についての意識啓発などが図られた。</p> <p>【近代建築ツーリズムネットワーク】 全国9自治体で近代建築ツーリズムネットワークを設立、市内に8棟ある前川國男建築のPRに努め、メディアに取り上げられることで、価値の再発見に繋がった。</p> <p>【文化財建造物・史跡等の公開】 復元・修理現場の特別公開や小学生を対象とした発掘体験・土器づくり体験等を開催し、地域の歴史に触れる機会の創出に繋がった。</p> <p>【ひろさき卍学の実施】 小中一貫教育の取組の一つとして、当市の歴史・文化・産業などを学ぶ「ひろさき卍学」を市立全小・中学校でスタート。地域資源を活用しながら、弘前について学び、郷土への愛着を持つきっかけに繋がっている。</p>																																		
<p>④ 自己評価</p> <p>小中学生及び全市民を対象とした文化財に触れる機会の創出により、自らのまちに対する誇りの醸成に繋がっている。 また、史跡である弘前城を舞台にしたスポーツイベント等が民間主導で開催されるようになり、歴史的資源を身近に感じる機会が増大している。</p>			 <p>景観ブース開催時の様子</p>  <p>史跡堀越城跡整備現場体験学習及び現場見学会</p>																															
<p>⑤ 今後の対応</p> <p>歴史的建造物の活用や文化財の公開等を通して、市民が身近に歴史的資源に接する機会の創出を図る。</p>																																		

市町村名	弘前市	評価対象年度	H21～H30年																
効果	i 景観の保全																		
<p>① 効果の概要</p> <p>景観施策による当市ならではの景観の保全</p>																			
<p>② 関連する取り組み・計画</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>他の計画・制度</th> <th>連携の位置づけ</th> <th>年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>景観計画</td> <td>あり</td> <td>H23年度策定</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>景観条例</td> <td>あり</td> <td>H23年度制定</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>屋外広告物条例</td> <td>あり</td> <td>H23年度制定</td> </tr> </tbody> </table>					他の計画・制度	連携の位置づけ	年度	1	景観計画	あり	H23年度策定	2	景観条例	あり	H23年度制定	3	屋外広告物条例	あり	H23年度制定
	他の計画・制度	連携の位置づけ	年度																
1	景観計画	あり	H23年度策定																
2	景観条例	あり	H23年度制定																
3	屋外広告物条例	あり	H23年度制定																
<p>弘前ならではの景観を守り育むため、市内全域を対象として景観計画と屋外広告物条例を策定。弘前公園周辺を景観形成重点地区として景観形成基準をきめ細やかに策定、歴史的資源と調和する景観づくりを行っている。</p> <p>また、五重塔と岩木山の眺望を保全する地区では高さ等の基準を策定し、眺望を保全。</p>																			
<p>③ 効果発現の経緯と成果</p> <p>市内全域を対象とする景観計画において、弘前公園周辺に景観形成重点区域を設け、色彩制限を行うことで、緩やかに歴史的景観の形成が図られてきている。</p> <p>景観を阻害する屋外広告物の撤去に対する支援を行ったところすぐに募集額(予算額:1,895千円)に達するなど、市民に景観づくりの意識形成が徐々に図られている。</p> <p>また、当市の歴史的景観を形成する寺町である禅林街の入り口にあった景観を阻害する建築物の撤去を行い、良好な景観の形成が図られた。</p> <p>弘前公園と禅林街を結ぶ道路は古くからの門前町で、お盆や彼岸の時期には多くの市民が往来する路線であり、沿道の造り酒屋など歴史的な市街地環境に配慮した石畳風の道路整備を行うことにより、良好な景観を形成。第7回ふるさとあおり景観賞最優秀賞を受賞した。</p>																			
 <p>景観形成重点地区</p>		 <p>景観形成基準に合わせ色彩を変更した郵便局</p>																	
 <p>撤去前</p>		 <p>撤去後</p>																	
<p>老朽化し屋根等が崩れ落ち景観を阻害していた建築物</p>		 <p>ふるさとあおり景観賞最優秀賞を受賞した石畳風道路</p>																	
<p>④ 自己評価</p> <p>景観計画に基づき、弘前公園周りの重点地区を中心に、緩やかに景観形成が図られてきている。</p> <p>今後予定している中心市街地での道路整備等においても周辺の景観に配慮した整備が求められている。</p>																			
<p>⑤ 今後の対応</p> <p>景観計画に基づく街並み誘導を行い、引き続き当市の歴史的資源を活かすような景観づくりに取り組む。また、道路等公共施設は良好な景観づくりにおいて重要であり、整備においても周辺の景観に配慮して整備を進める。</p>																			

市町村名	弘前市	評価対象年度	H21～H30年
効果	ii 外国人観光客の増加		

① 効果の概要

外国人観光客が8年間で約10倍に増加

② 関連する取り組み・計画

	他の計画・制度	連携の位置づけ	年度
1	経営計画	なし	H28年度策定
2	歴史的風致活用国際観光整備計画	あり	H27年度制定
3			

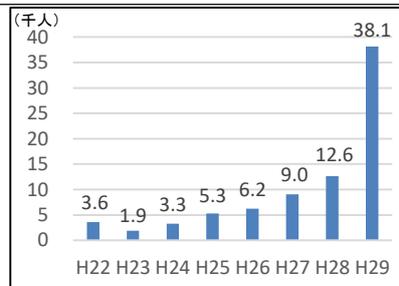
観光PRを目的としたトップセール等プロモーション活動の実施による外国人観光客の誘客を図るとともに、観光パンフレットの多言語版の作成、案内表示の多言語化、観光関連事業者向けのセミナーの開催など、受け入れ体制の充実を図った。

③ 効果発現の経緯と成果

観光パンフレットを6言語で作成、積極的なトップセールスや、海外での特産物・工芸品の販路開拓等を実施。

歴史的建造物の案内表示や公共交通マップの多言語化、多言語でバーチャルリアリティでの歴史的資源の解説を行うスマートグラスの作成、弘前城北の郭での着物・甲冑着付け体験コーナーの設置、免税一括カウンターの整備、外国人対応トイレの整備、休憩施設の整備、業種別外国人対応講習会の開催等、受け入れ体制の充実により外国人観光客の誘客を図った。

外国人観光客（述べ宿泊者数）では統計を取り始めた平成22年の約3千6百人泊と比較して、平成29年には約3万8千人泊を記録するなど、外国人観光客の大幅な増加となった。



外国人宿泊者数(千人)



多言語対応観光パンフレット

④ 自己評価

積極的な誘客活動や受け入れ環境の整備・充実により、外国人観光客が大幅に増加した。施設の案内表示の多言語化など、より一層受入環境を向上させていく必要がある。



多言語対応説明板

⑤ 今後の対応

施設の案内表示や、Wi-Fi環境の整備、広域観光ルートを巡る旅行商品の造成、歴史的資源付近の道路の美化など、外国人観光客の受入環境のより一層の向上を図ることとしたい。

市町村名	弘前市	評価対象年度	H21～H30年																
効果	iii 住民意識の向上																		
<p>① 効果の概要</p> <p>市民による歴史的資源を活かした活動の展開、景観に対する意識啓発と満足度向上</p>																			
<p>② 関連する取り組み・計画</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>他の計画・制度</th> <th>連携の位置づけ</th> <th>年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>景観計画</td> <td>あり</td> <td>H23～</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>					他の計画・制度	連携の位置づけ	年度	1	景観計画	あり	H23～	2				3			
	他の計画・制度	連携の位置づけ	年度																
1	景観計画	あり	H23～																
2																			
3																			
<p>これまでは行政主導で歴史的資源を活用した地域活性化を図ってきたが、住民発案の歴史的資源を活かした弘前城リレーマラソンや街歩きツアーなどが開催されるようになった。 市主催で景観に関する地域資源への気づきと意識啓発を目的とした景観フォーラム等を実施。また、景観に対する満足度が向上。</p>																			
<p>③ 効果発現の経緯と成果</p> <p>これまで弘前城本丸曳屋の公開、藤田記念庭園ではジャズや園遊会を開催するなど、市民が体験することができるイベントを市主導で開催してきた。</p> <p>平成27年度から弘前城を背景にしたマラソン大会がNPO法人主催で開催されるなど、歴史的建造物を活かしたイベントが広がりを見せている。</p> <p>また、弘前城築城400年祭や、東北歴史まちづくりサミットのほか、景観フォーラム等を開催、歴史や景観に関する意識啓発の機会づくりを行い、のべ約337,000人が参加。</p> <p>地域経営アンケート(市民評価アンケート)では、景観の魅力について満足である・どちらかといえば満足であると回答した人が平成23年度は51.5%であったのに対し、平成30年度は62.6%に上昇した。</p> <p>また、住民が自ら広告物を撤去することにより良好な景観が形成されるなど、意識の向上が見られた。</p>																			
<p>④ 自己評価</p> <p>地域の歴史的資源を活かしたイベントが市民主導で開催されるようになった。当市が持つ歴史的資源の魅力が市民が身近に感じている表れであり、イベント自体が地域に対する意識啓発に繋がっている。</p> <p>また、景観に対する住民の意識啓発、満足度向上が図られた。</p>		 <p>弘前城を背景に行われたリレーマラソン</p>																	
		 <p>↓ 広告物撤去前</p>																	
		 <p>↓ 広告物撤去後</p>																	
<p>⑤ 今後の対応</p> <p>継続してイベントを開催できるよう協力し、地域活性化を図るとともに、市民が主体となった歴史まちづくりの支援に取り組む。</p>																			

市町村名	弘前市	評価対象年度	H21～H30年
取り組み	A弘前城本丸石垣整備事業	種別	歴史的風致維持向上施設
<p>① 取り組み概要</p> <p>史跡津軽氏城跡弘前城跡は、弘前城天守のほか櫓や門といった国指定重要文化財建造物が現存し、地域の成り立ちに関わる重要な歴史的価値を有した当市を代表する史跡である。昭和58年の日本海中部地震を契機に本丸東側石垣の膨らみの指摘があり、石垣の調査を行ったところ、このまま変位が進行すると天守を巻き込んだ崩落の危険性があるとの報告を受けた。これを受け平成19年度から石垣の基礎調査に着手、平成24年には修理範囲が確定、平成26年から文化庁、弘前城本丸石垣修理委員会の指導を受けながら、石垣の保存修理に着手している。</p> <p>平成26年には石垣修理のため内濠を埋め立て、平成27年度は、曳屋工法により仮天守台まで70mの移動を「魅せる工事」として実施。現在は石垣解体工事中である。</p>			
		 <p>下乗橋からの光景【曳屋前】</p>  <p>下乗橋からの光景【曳屋後】</p>	
<p>② 自己評価</p> <p>内濠の開放、曳屋工事や、石垣修理工事見学のための展望デッキの設置等、工事現場を積極的に開放してきた。また、体験型のイベントとして開催した天守曳屋体験では約3,900人が参加、その後も石曳き体験、石積み・石吊り体験等を実施している。</p> <p>当事業の実施は、歴史的風致を維持していくために必要な歴史的資源の適切な維持管理を行うだけでなく、工事現場の開放や、様々な体験型イベントを実施することにより、当初懸念していた観光客の落ち込みもなく、弘前さくらまつりには毎年200万人を超える観光客で賑わっている。また、メディアにも大きく取り上げられ、多くの市民や観光客が歴史的資源を身近に感じる機会の創出にもつながっている。</p>			
外部有識者名	弘前大学名誉教授 長谷川 成一		
外部評価実施日	平成30年11月14日		
<p>③ 有識者コメント</p> <p>弘前城天守は岩木山を望み、約2,600本の桜と城郭遺構が一体となって「弘前さくらまつり」を始めとする弘前市の観光にとって代表する重要な景観資源となっている。本丸石垣の大規模な修理事業は重要なものである一方、観光面や地域経済に大きな打撃を与える要因になりえたが、整備自体を観光資源にし、工事の見える化や曳屋事業への市民・観光客の積極参加等により観光入込客数の増加につながった。そればかりでなく、新聞やテレビ等で紹介されることで当市の歴史・観光資源の全国的な魅力発信につながり、また、歴史を身近に感じる機会の創出につながっており、高く評価できる事業である。今後、歴史的風致を次の世代に継承していくためには、引き続き、整備修理事業を活用して当市の歴史的風致の価値をさらに高めていくことができるよう、継続した工夫が求められるであろう。</p>			
<p>④ 今後の対応</p> <p>史跡修理における公開型及び体験型工事イベントをさらに推進し、市民へ歴史を身近に感じる機会の創出を図るだけでなく、観光客の価値観の多様化に対応していけるよう、当市ならではの持続的かつ魅力的なおもてなし施策を追求し、地域活性化及び歴史的風致の維持向上につなげていきたい。</p>			

市町村名	弘前市	評価対象年度	H21～H30年
取り組み	B伝統的建造物群保存地区地方道改修事業	種別	歴史的風致維持向上施設
<p>① 取り組み概要</p> <p>仲町伝統的建造物群保存地区は、「さくらまつり」が開催される国指定史跡である弘前公園の北側に位置し、点在する門や板塀、サワラの生垣など、藩政時代の武家屋敷街の景観を今に伝える地区である。</p> <p>当地区は藩政時代の地割をそのまま残しているため、道路幅員が狭隘で電柱が輻輳し、車両や歩行者の通行に支障をきたしているほか、道路上空を架線している多数の電線が景観に多大な影響を与えており、これらの解消を図るため、無電柱化と消流雪溝を整備、あわせて景観に配慮した石畳風舗装を行い、公園と一体となった景観形成を図った。</p> <p>【無電柱化※電線共同溝本体工事】 全体延長 L=1,610m</p> <p>【消流雪溝】 全体延長L=1,620m</p>			
		 	
<p>② 自己評価</p> <p>開渠部に消流雪溝を整備するなど、歩行空間の確保により住民の利便性・快適性が向上。さらに、電柱や電線類の撤去及び石畳風舗装により、良好な景観形成が図られた。</p> <p>また、道路が狭隘であるため、無電柱化に必要な地上機器の設置場所を沿線住民の敷地内に置く等協力を得、地域と一体となり景観づくりが進められた。</p> <p>平成24年度に復元した旧弘前藩諸士住宅(旧笹森家住宅)が国の重要文化財に指定されたことから地区の歴史的価値が高まるとともに、地区内の環境が向上し、武家屋敷入場者数(旧伊東家住宅・旧梅田家住宅・旧岩田家住宅・旧笹森家住宅)が平成24年度と比較して、平成29年度は約10,000人増加している。</p>			
外部有識者名	弘前大学名誉教授 長谷川 成一		
外部評価実施日	平成30年11月14日		
<p>③ 有識者コメント</p> <p>津軽氏城跡弘前城跡に隣接する仲町伝統的建造物群保存地区は、城下町景観を形成する重要な都市空間でもある。無電柱化を中心とした整備は車両や歩行者の通行に支障をきたす要因を除去するばかりでなく、江戸時代の原風景に近づけるものである。住民と共に作り上げた景観により武家屋敷の入場者数が増加するなど、成果が目に見えてわかる事業である。今後この景観を維持することが求められるが、住民の高齢化や空き地、空き家の課題があり、良好な景観の維持と住民の生活の両立を図る取組が重要となってくるであろう。</p>			
<p>④ 今後の対応</p> <p>弘前らしさを感じられる場所であり、これからも地域住民と一体となって景観を保存するとともに、住民の高齢化や空き地、空き家の増加など、ライフスタイルの変化にも対応する必要がある。現在、「弘前市仲町伝統的建造物群保存地区保存計画」の見直しを行っており、住民の意見も聞きながら、住民生活と景観の維持ができる仕組みを考えていきたい。</p>			

市町村名	弘前市	評価対象年度	H21～H30年
歴史的風致	1 弘前さくらまつりに見る歴史的風致	状況の変化	向上
対応する方針	I 歴史的な建造物やまち並みの保存と活用の推進 IV 歴史的風致の魅力を再発見できる取り組みの推進		

① 歴史的風致の概要

弘前市は、藩祖津軽為信がこの地に築城を計画して以来、約400年にわたり弘前公園を中心に据え、まちづくりや人々のくらしが営まれてきた。

弘前公園の桜は、正徳5年弘前藩士が25本のカミザクラを京都から取り寄せ、城内に植えたのが始まりとされ、現在では約2,600本が植えられている。大正7年に第1回観桜会として開催されたさくらまつりは、重要文化財である天守、3棟の櫓、5つの城門を背景に約100年続く春の一大行事として開催されるようになり、毎年200万人を超える花見客で賑わっている。

② 維持向上の経緯と成果

弘前さくらまつりの舞台である弘前公園内の崩落の恐れのある石垣を整備するため、天守曳屋等を実施。改修工事期間は観光客の落ち込みが懸念されたが、全工事工程を公開、体験型イベントにすることにより、メディアにも取り上げられ、観光客の落ち込みはなく、魅力の再発見と当市の歴史遺産のPRに繋がった。

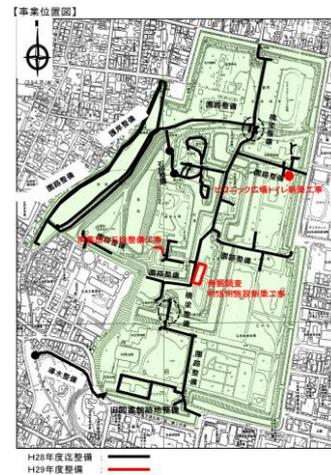
ふるさと納税では弘前城石垣修理を応援し、石垣修理関連イベントへ優先的に参加できる「石垣普請応援コース」の「一口城主」に寄付が集まるなど注目の高さを伺うことができる。

また、弘前の街並み形成過程や築城の歴史を発信する二の丸活用施設を新設。弘前城の情報を得て城や城下町をめぐることで一層歴史的風致の理解促進につなげることができるようになった。

また、園内施設の老朽化に対応し、橋梁や護岸、石垣整備等を実施することで、歩行障害の改善や利便性・快適性を向上させ、弘前さくらまつりに見る歴史的風致を保全し次世代へと引き継ぐ環境を整えた。

さらに濠の改善により水流の調整が可能となり、花筏を作り出すことが可能となった。増加する外国人観光客へも対応し、歴史的建造物説明板の多言語化や藩政時代の衣装着付け体験コーナーの設置等、歴史的風致の理解促進が図られた。

樹木医資格を有する市職員を3名に増員し、桜を適切に後世に引き継ぐ体制を整え、風致の維持に繋がった。



鷹揚公園整備箇所



濠の改善により作り出される花筏

③ 自己評価

弘前公園の整備により文化観光資源や学習の場としての活用を促し、市の歴史的・文化的シンボルとしての魅力向上が図られた。また、外国人観光客の受け入れ環境の整備を図ることで、歴史的風致の理解促進及び維持向上が図られた。

引き続き石垣の修理や、老朽化している園内施設があり、整備を進める必要がある。

④ 今後の対応

弘前さくらまつりの舞台である弘前公園内の石垣整備や遺構の復元を進め、歴史的風致の保全を図っていく。また、工事過程の公開等、積極的な情報発信を行うことによりさくらまつりに見る歴史的風致を次世代へ繋げていく。

市町村名	弘前市	評価対象年度	H21～H30年
歴史的風致	2 弘前ねぶたまつりに見る歴史的風致	状況の変化	維持
対応する方針	I 歴史的な建造物やまち並みの保存と活用の推進		

① 歴史的風致の概要

弘前ねぶたまつり、火祭りとながしによって構成され、毎年8月1日から7日の1週間、市内を練り歩く夏祭りである。起源は元禄期の後半から「眠り流し」から「ねぶた」になったと言われているが、諸説ある。

町会単位での参加が主流で、準備は6月上旬からねぶたを製作するための「小屋がけ」から始まり、約2か月間の準備期間は地域社会を形成するうえで大きな役割を担っている。

平均70団体前後のねぶたが弘前市役所本庁舎を始め、多くの歴史的建造物が立ち並ぶ市街地を練り歩き、弘前の代表的な歴史的風致となっている。

② 維持向上の経緯と成果

ねぶたが運行される市街地には歴史的建造物が立ち並んでいるが、その多くで老朽化が進行しており、修繕が必要となっている。

弘前ねぶたまつりの待機場所となっている旧第八師団長官舎（国の登録有形文化財）は市役所敷地奥にあったが、市民の目に触れるよう、改修し路面に曳家。また、市役所本庁舎（国登録有形文化財）は多くの市民や観光客の目に触れる施設だが、老朽化が著しかったため、竣工当時の姿を甦らせるべく、外壁の洗浄や耐震補強を実施した。

また、ねぶたまつりスタート地点にある市民中央広場はねぶた小屋が4棟建設できるよう設計。隣接する旧第五十九銀行本店本館（国指定の重要文化財建造物）と合わせて利活用を図る計画となっている。

ねぶたの制作・運行に対しては助成を行い、運行台数及び参加団体は維持し続けており、弘前の歴史的風致は維持されている。

市民中央広場イメージ



弘前ねぶたまつりの様子



弘前市役所本庁舎



老朽化し改修が必要な歴史的建造物

③ 自己評価

ねぶたまつりの背景である市役所本庁舎の改修を行うことにより市街地の歴史的建造物の保全が図られ、歴史的風致の維持が図られたが、ねぶたの運行ルート上には歴史的建造物が多くあり、老朽化による保全が必要となってきている。

④ 今後の対応

ねぶたまつりルート上にある多くの歴史的建造物は老朽化が進んでおり、第1期計画では保全に着手できていない建造物があるため、引き続き修景に対する支援が必要である。

市町村名	弘前市	評価対象年度	H21～H30年
歴史的風致	3 宵宮に見る歴史的風致	状況の変化	維持
対応する方針	Ⅱ 地域に根付いた伝統的な人々の活動への支援 Ⅲ 歴史的風致の活用に向けた環境整備の推進		

① 歴史的風致の概要

城下町弘前には多くの古社寺が残り、祭事などを通じて地域の人々と密接に結びついている。城下町全体を防衛ラインとして捉える「総構」内の防衛拠点として寺社が城下へ配置された。この寺社の祭りの前日に行われる宵宮を「ヨミヤ」と呼び、露店が並び、津軽神楽や獅子舞といった伝統芸能が奉納される神社もあり、地域の伝統的行事となっている。中でも重要文化財となっている五重塔がある「ダイエンジのヨミヤ」は津軽地方最大で、150を超える露店が軒を並べる。弘前近郊約80箇所毎夜のように開かれるヨミヤは夏の風物詩となっている。

② 維持向上の経緯と成果

新寺構土塁の整備により、遺構の保護だけでなく当市で最大規模の宵宮が開催される五重塔の眺望景観保全と歩行者空間の確保が図られ、安全な回遊ルートが形成された。

また、五重塔の近くに公衆トイレを整備することで来訪者の利便性を確保し、歴史的風致の理解促進のための受入環境を整えた。

宵宮で奉納される津軽神楽の記録保存や芸能発表に対する活動費補助等の支援を行い、伝統芸能の保存と育成が図られ、風致の維持に繋がっている。

また、宵宮で奉納される獅子舞が練り歩く松森町の通りは、当市に残る町屋を代表する建物が多く残っており、文化財には指定されていないものの、多くが「趣のある建物」に指定されている。この「趣のある建物」をまとめた散策ガイドマップは年間約2万部配布されており、宵宮の背景となる歴史的街並みが市民に認知されてきている。

松森町津軽獅子舞保存会はその存在と価値の認識を図るとにより、後継者不足の解決と活動の活性目指し、市の支援によりしおりの作成を行った。



整備前



整備後



趣のある建物散策ガイドマップ

③ 自己評価

ヨミヤは夏の風物詩であり、伝統行事を絶やさないう、周辺環境整備や、伝統芸能への支援を行った。

宵宮の代表的な最勝院五重塔の周辺整備は整えてきたが、その他に宵宮が行われる寺社周辺の歩道が老朽化し、景観が阻害されることにより、風致が損なわれてきている等整備が必要な箇所が残っている。

また、伝統芸能の後継者不足が引き続き懸念されている。

④ 今後の対応

当市を代表する寺町である禅林街の歩道の美装化を進め、ヨミヤに相応しい環境を整える。また、伝統芸能を絶やさないう、活動に欠かせない用具の補修費等への財政支援を行う。

市町村名	弘前市	評価対象年度	H21～H30年
歴史的風致	4 津軽伝統工芸職人たちに見る歴史的風致	状況の変化	維持
対応する方針	I 歴史的な建造物やまち並みの保存と活用の推進 II 地域に根付いた伝統的な人々の活動への支援		

① 歴史的風致の概要

藩政時代以降職人たちの手により継承されてきた数多くの伝統工芸が史跡津軽氏城跡を中心とした旧城下町の区域で人々の生活と結びついて現在まで発展してきている。

中でも代表する伝統工芸となっているのが津軽塗で、国の重要無形文化財に指定されている。この他にも、津軽地方一円の丘陵にあるりんご園で使われるりんごの剪定鋏等の津軽打刃物は、ブランド品として県内外から注目を浴びている。また、天然藍染の工場の周辺は弘前城北門や重要文化財建造物石場家住宅など生活感あふれる歴史的な街並みを形成している。いずれの伝統工芸も時代に合わせて柔軟に対応した商品を生み出しながら現在の生活に溶け込んでいる。

② 維持向上の経緯と成果

歴史的風致形成建造物に指定されている紺屋町の旧消防屯所では、津軽塗技術保存会の研修活動拠点として研修生の作品展示による普及啓発も行っている。

また、旧藤田家別邸倉庫（現：匠館）を改修し、伝統工芸の展示販売ギャラリーを開催している。観光客が休憩しながら伝統工芸品に触れる機会を創出している。

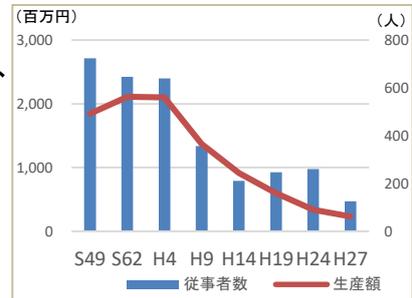
それぞれ低利用であった歴史的建造物を活用して伝統工芸に触れる機会の創出に繋げている。

後継者育成支援により自宅の作業場では研修生の受け入れに抵抗があった職人が技術を教える場が設けられたことにより、後継者育成の機会が確保された。

販路拡大に対する支援も合わせて行い、伝統工芸の消費拡大、職人たちの意識改革が一定程度図られた。



津軽塗技術保存会の研修活動拠点となった旧消防屯所



津軽塗産地数値動向



旧藤田家別邸倉庫（匠館）
工芸品ギャラリー

③ 自己評価

津軽塗が国の重要無形文化財に指定され、地元の伝統工芸に対する認識とその価値が向上した。

継続して支援を続けることにより、技術が途絶えることは回避されているが、一方、高齢化による後継者不足が引き続き課題となっている。

④ 今後の対応

これまで行っていた後継者育成事業について、募集対象者の要件緩和や、移住定住等の活用も含め津軽塗職人の確保・育成に向けた取組を進める。

また、引き続き販路拡大支援に取り組み、伝統工芸の継承に努める。

市町村名	弘前市	評価対象年度	H21～H30年
歴史的風致	5 お山参詣に見る歴史的風致	状況の変化	維持
対応する方針	I 歴史的な建造物やまち並みの保存と活用の推進 II 地域に根付いた伝統的な人々の活動への支援		

① 歴史的風致の概要

お山参詣は旧暦8月1日に行われ、五穀豊穡と家内安全を祈願し、津軽地方の各地域から岩木山を目指して集団登拝する民間信仰行事である。古くは鎌倉時代初期にまで遡るとされているが、現在のように形式化したのは寛政3年からと考えられ、旧暦8月1日に一般客がご来光登拝できるようになったのは明治に入ってからである。

白装束で麓から岩木山神社まで供物や幟・御幣を担ぎ、登山囃子を囃しながら練り歩き、岩木山神社周辺の一般民家は解放され、参詣者の休憩所となる。津軽地域に住む人にとって精神の拠りどころとなっている岩木山へのお山参詣は旧暦のまま行っている神聖な行事である。

② 維持向上の経緯と成果

お山参詣のルート上にある高照神社宝物殿で津軽家ゆかりの文化財が保管・展示されていたが、施設の老朽化が著しいため整備。市民や来訪者が地域の歴史と魅力についての理解を深めることにより後世への継承が図られ、歴史的風致の維持向上に繋がった。

お山参詣登山囃子保存会の育成活動を支援することで、民俗芸能発表会などの自主開催を毎年開催している。

お山参詣のメイン会場となる岩木山神社の社務所を県重宝へ指定。破損箇所について、文化財の価値を損なうことなく適切に修理を行い、お山参詣の風景の保全が図られた。

また、トイレの改修や、説明板の多言語化など受け入れ環境を整え、毎年約7万人の参加者及び観光客が快適に歴史に触れる機会を確保できた。



お山参詣の様子



旧高照神社宝物殿



高岡の森 弘前藩歴史館

③ 自己評価

高岡の森弘前藩歴史館の整備により、保存されていた文化財を市民の目に触れる機会が創出され、地域の歴史資産の再認識に繋がった。また、登山囃子保存会の活動支援により、伝統芸能の保存が図られたが、後継者不足が引き続き懸念されている。

④ 今後の対応

今後も登山囃子保存会の民族芸能発表会に対する活動費補助支援や、お山参詣を一般の方が体験できる事業の支援、周辺環境の整備に取り組み、歴史的風致の維持に努める。

市町村名	弘前市	評価対象年度	H21～H30年
------	-----	--------	----------

① 庁内組織の体制・変化

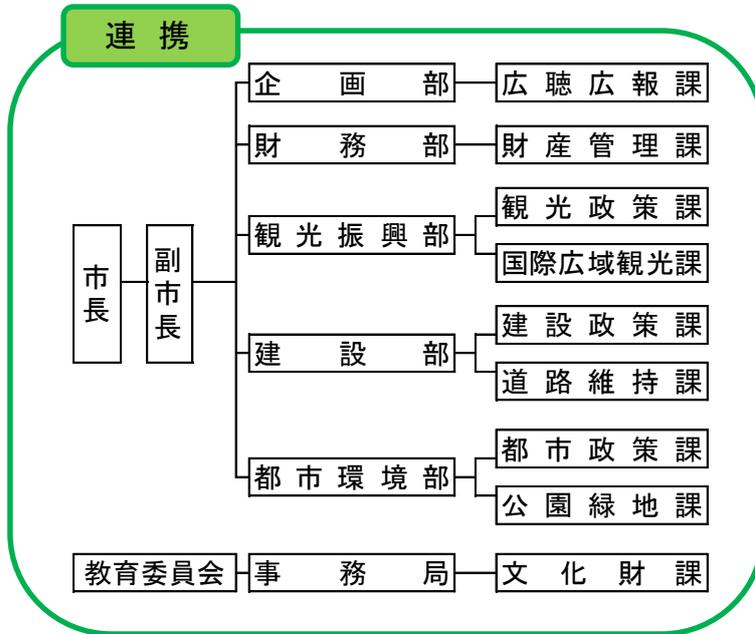
計画の推進にあたり、事務局である都市政策課と文化財課は庁舎が別であるが、随時調整を図った。

各事業を実施する際は庁内各課協力体制を構築している。

平成24年度にはインバウンド対策を行う部署を設置、外国人誘客や受け入れ態勢の充実の面で連携を図った。



事務局打ち合わせの様子



② 庁内の意見・評価

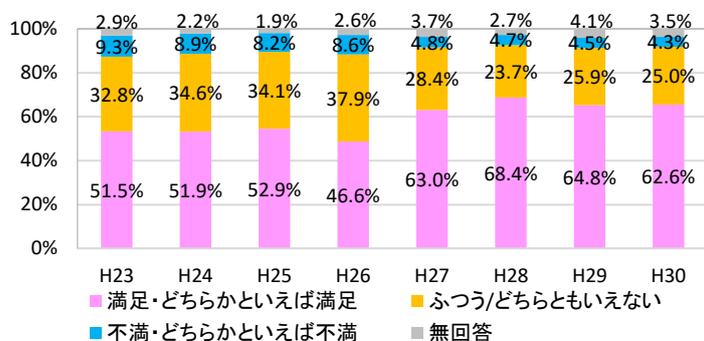
（とりまとめ後記載）

市町村名	弘前市	評価対象年度	H21～H30年
------	-----	--------	----------

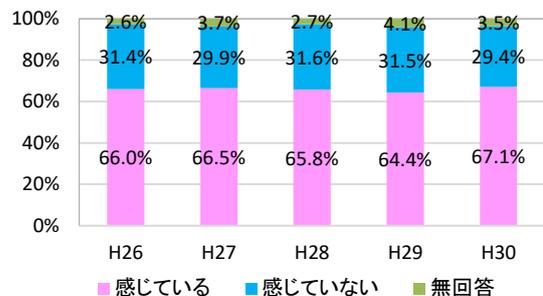
① 住民意見

地域経営アンケート調査結果（調査対象：市内在住の16歳以上）

○弘前の景観の魅力について



○郷土弘前の歴史と文化遺産に親しみを感じていますか



② 協議会におけるコメント

（弘前市歴史的風致維持向上計画推進協議会開催後記載）

市町村名	弘前市	評価対象年度	H21～H30年
<p>① 全体の課題</p> <p>1、歴史的建造物の保存・活用に関すること 国指定の重要文化財建造物弘前城天守の石垣整備をはじめ、文化財指定されている建造物については順次保全を図っているものの、引き続き整備を進める必要がある。 また、市街地のその他の歴史的建造物の老朽化も進んでいるが、保全に着手できていない建造物がある。 一方、歴史まちづくりに関する情報発信を行うことにより住民意識が向上しているため、継続した情報発信が必要である。</p> <p>2、歴史的建造物や歴史的街並みと調和する周辺環境の整備に関すること これまで一部地域で道路の美装化や電線の地中化を進めてきたが、歴史的街並みにそぐわない電線や道路が残っている。 また、少子高齢化に伴う後継者不足や空き家化などによる良好な景観を形成する周辺環境の管理不足が懸念され、社会環境の変化への対応が必要となっている。</p> <p>3、歴史と伝統を反映した人々の活動の継承に関すること 伝統工芸の後継者不足が進んでおり、後継者確保と技術の継承が課題となっている。また、伝統文化等の継承のため、活動にかかる経費負担が課題となっている。</p>			
<p>② 今後の対応</p> <p>1、歴史的建造物の保存・活用に関すること 地域を代表する歴史的建造物等の適切な保全及び活用に引き続き取り組む。また、民間が所有する景観重要建造物については、補修の費用負担の支援を行うことにより、保存・活用を図る。 地域の歴史資源の認識のさらなる向上を図るため、継続して地域住民が身近に感じられるよう情報発信に取り組む。</p> <p>2、歴史的建造物や歴史的街並みと調和する周辺環境の整備に関すること 仲町伝統的建造物群保存地区等の歴史的街並みを保全するため、道路の美装化や無電柱中化等により歴史的景観に配慮した整備を引き続き進めるとともに、少子高齢化に伴う後継者不足や空き家化等、懸念される社会環境の変化に対応した保存計画の見直しや、修景を行う。</p> <p>3、歴史と伝統を反映した人々の活動の継承に関すること 伝統工芸の後継者育成のため、研修等による人材確保等の支援を行うとともに、伝統文化や祭礼行事の継承を図るため、活動団体に対し財政支援を行う。</p>			